

復活する祭礼と民俗芸能 東日本大震災と岐阜県の事例から

The Restoration of Festivals and Folk Performances

Case Study of the Great East Japan Earthquake Disaster and Gifu

南本有紀¹

Yuki Minamimoto¹

¹岐阜県博物館

要 旨

東日本大震災の復興における民俗芸能の復活や無形文化遺産の保護が大きなトピックになっている。被災地以外でも、過疎化の進展で休止廃絶に追い込まれる民俗芸能が少なくない中、数十年ぶりに復活する祭礼が、新聞紙上を時折にぎわす。とくに、岐阜県郡上市の風流踊りは数年から数十年毎の挙行を繰り返してきた。また、戦後史を俯瞰すれば、民俗芸能は、文化財保護法の整備に伴って保存会活動が喚起され、あるいは、地方分権の地流にのって、まちおこし・むらおこしの一環として度重なる復興をなしてきた。

本稿では、復活する祭礼／民俗芸能について県内の事例を紹介した。併せて、数年から数十年毎の上演（復活）を繰り返してきた郡上市の民俗芸能について事例を図表に整理した。

はじめに

311 東日本大震災から3年目を迎えた2014年は、未だ収束先の見えない原発事故に代表されるさまざまな問題を抱えながらも、漸く復興の兆しも見えてきた年となった。文化庁や東京文化財研究所等による文化財レスキューも、被災文化財の、初期の緊急避難からより恒常的な保存管理へと段階を進めており、この一年は各種報告書の刊行が相次いでいる¹。また、これらからも窺えるように、現在、活動・調査の対象は、当初の有形文化財中心から、無形民俗文化財、なかでも祭礼や民俗芸能²の復興・復活へと比重が移っている。あるいは、日常生活の復興がなかなか進まない中、祭礼の復活は明るい話題として取り上げられることが多かった。

研究者と震災復興の関係でいうと、こうした被災無形民俗文化財への学術サイドの支援は、先の阪神・淡路大震災のときと比べて、東日本大震災復興活動に際立った印象を受ける³。未曾有の大災害を前に、誰しものが声を失い、その超克に「絆」の重みを実感したものだが、「象徴的復興」⁴である祭礼の復活はその化現ともいえるか。いずれにせよ、興味を引かれるトピック⁵ではある。

これに連想されたことがある。筆者は、以前、大垣祭⁶（岐阜県大垣市）について調査の機会に恵まれ、概略をま

とめた⁷が、その際、戦災等で焼失した山車（大垣では「ヤマ」⁸という）が何度も再建されるさまに非常な関心を覚えた。祭礼の挙行はただの娯楽ではなく、信仰が伴うのはもちろんとして、物心ともに多大な負担を強いるものだ。かてて加えて、重い経済的負担をものともせず、新たに壮麗巨大な山車をつくりだす人々の実際的な行動力に、素直に感心させられた。また、近世・近代の町衆に替わって、祭礼を取り仕切る市商工観光課⁹の水際立った運営ぶりも印象深かった。

さらに、2014年には岐阜県郡上市に散在する風流踊り系の民俗芸能（掛踊り、大神楽）を見学することができた。というのも、当該年は、不定期に挙行される複数の祭礼の開催年にあたり、実に、郡上では民俗芸能の当たり年であったためである。これらの祭礼は、長いもので21年ぶりに開催されたというが、いずれも、長い中断を感じさせない堂々たるパフォーマンスを見せた。

こうして復活を遂げる祭礼がある一方、近年、休止・廃絶する民俗芸能が目立つようになったことは、筆者のみならず、広く実感されるだろう。少子・高齢化が進展し、大規模合併で過疎にあえぐ地方は痛めつけられていて¹⁰、祭礼の挙行は、確実に以前よりも困難になっている。このことには、民俗学も無関心ではない。文化財保護の現

場で奮闘する市町村職員（彼ら自身も合併によって少数精鋭主義のハードワークを強いられている）は、とくに危機感を持っている¹¹。実際、民俗芸能の伝承地は押しなべて限界集落かその予備軍である。率直に言って、一歩引いて俯瞰するなら、やはり、民俗芸能は衰退への道を免れ得ないだろうと思う。しかし、それでも、やはり、祭礼は現実に復活してきたのである。本稿では、そのようすを、岐阜県における具体例を挙げて示し、現代社会における民俗芸能が置かれた難しい環境について問題の整理に資したいと思う。

1 東日本大震災と祭礼

最初に東日本大震災が与えた祭礼挙行状況への影響を見ていこう。震災の与えたインパクトは、ショッキングのひとつであって、人的物的被害の余りの甚大さに、日本中が自粛ムードに包まれた。当該年の祭礼も例に漏れず、各地で、開催を取りやめたところが少なくなかった。例えば、岐阜県では表1のようになった。

表1 東日本大震災による祭礼自粛状況

祭礼	場所	開催	自粛	中止	実施
美濃まつり	美濃		○	花みこし、山車巡行、練り物 美濃流し仁輪加 ※中止は太平洋戦争以来	神事
郡上八幡春まつり	郡上		○	手作りみこしイベント、神楽競演	各神社の神楽奉納
古川祭	飛騨		○	起し太鼓、屋台曳きそろえ ※1946年以来、65年ぶり中止	神事
飛騨神岡祭	飛騨		○	前夜祭、神輿行列	神事、浦安の舞
きねふりまつり (安弘見神社例祭)	中津川		○	杵振り踊り、神馬・花馬奉納、 みこし奉納 ※中止前例なし	神事
ひんここまつり (大矢田神社例大祭)	美濃		○		神事
春の高山祭 (日枝神社例大祭)	高山	○			
飛騨生きびな祭	高山	○			
桜山八幡宮式年大祭	高山	○			※30年に一度 「世直しの大祭」とも

※下記記事より作成
岐阜朝刊 20110323 岐阜朝刊 20110324 中日朝刊 20110324
岐阜朝刊 20110325 岐阜朝刊 20110326 岐阜朝刊 20110327 神岡ニュース 20110428

有名な祭礼では、高山祭(高山市)が実施したのに対し、起し太鼓で知られる古川祭(飛騨市)が中止を決めた。両者はともに県内外に広く知られている祭礼で、地元では、ある種、ライバル関係にある。いずれも、飛騨人が大事にする祭りで、毎年、楽しみにされているだけに、対応が分かれたことは話題を呼んだ。同じく実施された桜山八幡宮の式年大祭(つぎの表2にある「大まつり」とも)とは、飛騨地域の有力神社で、20～50年毎に、飛騨一円の神々を招いて持ち回りで行われる祭礼のことで、大きな災害があった年に行われることが多かったため、「世直しの大祭」と呼ばれている。そのこともあって、復興祈

願を目的に掲げて敢えて挙行されたものである。

表1の祭礼は、いずれも、震災直後の4～5月が祭礼日であり、祝祭ムードが漂うことは許されなかったことから中止の判断に至る主催者が多かったとみられる。それに対して、少しずつ復興へと前を向き始めた夏ごろには、表2に示すように、被災地でも、人々の心のよりどころとして祭礼を復興挙行する動きが出始めた。また、飛騨の大祭のように復興支援を挙行理由とする祭礼や、被災地での祭礼挙行そのものを支援するボランティア活動も見られるようになる。こうして、祭礼は震災復興の大きな手段となったといえる。その一方で、神社庁等の支援で新調された神輿が、担ぐ人もいないまま祭礼で出番がない状況もある¹²。

表2 震災後実施された祭礼

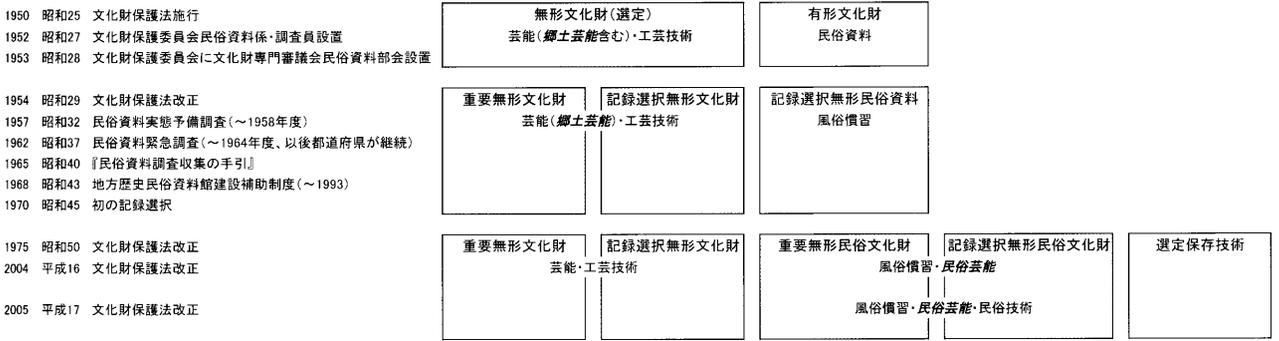
場所	行事	記事掲載	内容	掲載紙
岩手県 陸前高田市高田	うごく七夕	20110517 20110802	流失山車が発見され開催契機に「伝統絶やさない」「供養するのが祭りの意味」 全国から支援	岐阜夕刊
福島県浜通り	相馬野馬追	20110723	錦旗・復興をテーマに規模縮小して開催	岐阜朝刊
宮城県 石巻市桃浦	獅子舞	20120528	流失後漂着した獅子頭による獅子舞復興を計画 ※2012年4月 神輿渡御・神事を実施	中日夕刊
岐阜県高山市	飛騨の大まつり	20110504	桜山八幡宮式年大祭 天災・大火・戦争後に開催、「世直し大祭」と異名	中日朝刊
愛知県 半田市亀崎	潮干祭	20110504	「震災復興」機、楯は1943年以来68年ぶり 伊勢湾台風(1959)復興地区として励まそうと計画	中日朝刊
京都府京都市	祇園祭	20110616	仙台七夕まつりで特別披露 「京都らしい支援」を	中日朝刊
愛知県一宮市・安城市	日本三大七夕まつり	20110707	岩手県大船渡市「盛町灯ろう七夕まつり」 岩手県遠野市「遠野七夕まつり」 岩手県陸前高田市「うごく七夕まつり」を支援 七夕飾り・ボランティア等を現地へ	中日夕刊

とまれ、被災地における祭礼復活の動きは、今後も進むことが予想される。それはさまざまな要因によるのだろうが、人々の暮らしと祭礼双方にとってプラスとなり、かつ、社会全体の復興に役する方途が採られることを期待している。

2 民俗芸能の位置づけ

ところで、民俗芸能は文化財保護法では「無形民俗文化財」に分類されている。無形とは時空を超え得ない芸能表現¹³を指しており、民俗芸能は、厳密な意味では「保存」できない。民俗芸能に対する文化財保護法の考え方は、かなり、変遷・錯綜してきた経緯¹⁴があるのだが、ここでは、簡単に図にまとめた。

図1 文化財保護法における民俗芸能



※出典
 齋藤裕嗣、2008、無形民俗文化財(民俗芸能)の公開 ブロック別民俗芸能大会を中心に(月刊文化財 540号、2008年9月)

よく指摘される¹⁵⁾ように、当初、民俗芸能は無形文化財に分類され、評価体系や基準の異なる古典芸能(能楽・歌舞伎・文楽など)と同列に並べられる一方、有形文化財における民俗資料と分断されていた。そのため、「そのものの自体の芸術的な価値が高いというものでなく、わが国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないものであり、重要文化財とは価値の観点を異にする¹⁶⁾」と考えられた。「無形文化財(※筆者注：古典芸能や工芸技術を想定)には、重要無形文化財に指定(※下線筆者、以下同)してそのものをそのままの形で保存する措置を講ずる必要のあるものも多いのであるが、無形の民俗資料については、自然的に発生し、消滅して行く民俗資料の性質に反し、意味のないことであり、「そのままの形で残存させようとしてもそれは不可能であるため、「記録保存の措置をもってたり」と判断された。「無形の民俗資料のうち、特に資料的価値の高いもの等についてはこれを選択して」、その記録を作成・保存・公開し、あるいは公開(上演)することで保護にあたらうとしたのである。民俗芸能へのほのかな蔑視を感じさせる点で若干の抵抗を感じさせるが、民俗芸能の本質を理解したうえで保護施策を講じようという現実的な考え方である。

しかし、これにそった施策が実行されることはなく、法改正により、現行の位置づけに定まることになる。即ち、無形有形合わせた「民俗文化財」というカテゴリーを設け、無形文化財と切り離れた「無形民俗文化財」の指定および記録選択制度である。民俗芸能は「指定」され、原型保存される対象となったのだ。指定されるためには受け皿としての保存会¹⁷⁾が求められ、氏子等の緩やかな地縁集団による「村のまつり」が、行政主導の保存会による行事へと整理されていくことになった。

こうした流れを踏まえて、以下に、岐阜県の事例を紹介する。

3 中絶し復活する民俗芸能

表3は祭礼の復活を新聞記事から拾い、一覧にしたものである。祭礼の復活は、1940年代・1件、1950年代・11件、1960年代・8件、1970年代・30件、1980年代・45件、1990年代・43件、2000年代・40件、2010年代・37件の計215件を数えた。うち、前述した飛騨地域の大祭(周期的に実施される)が15件、修理復元が7件、残りが民俗芸能(祭礼)の復活を伝える記事である。さらに、中断間隔がわかるものを拾うと、10年未満の復活が21件、10数年ぶり・16件、20数年ぶり・22件、30数年ぶり・34件、40数年ぶり・15件、50数年ぶり・11件、60数年ぶり・4件、100年ぶり・6件となり、90年・120年・130年・140年・180年・250年・300年・400年・900年ぶりが各1件あった。

表3 新聞記事(祭礼復活)

場所	タイトル	新聞	年月日
養老	養老の滝祭復活	朝日朝刊	19470620
高山	高山祭の屋台10年ぶりに復活	朝日朝刊	19500406
美濃	美濃町の川祭り13年ぶりに復活	朝日朝刊	19500721
岐阜	岐阜市の川祭り復活	朝日朝刊	19500726
大垣	10余年ぶりに夜宮復活 大垣祭り	岐阜朝刊	19530511
岐阜南	八剣村の雨乞い踊り33年ぶりに復活	岐阜朝刊	19550817
大垣	23年ぶり復活 豊年祭 大垣市十六町	岐阜朝刊	19551004
関	三十余年ぶりに復活 関市 吉田雨乞いおどり	岐阜朝刊	19551017
各務原	20年ぶり奇祭復活 芋ヶ瀬池	岐阜朝刊	19561207
高山	27年ぶりの盛儀幕開く 飛騨総社式年大祭 高山市	岐阜朝刊	19570502
岐阜	岐阜まつり モチまき船を復活 葛懸神社のみ	岐阜朝刊	19571110
谷汲	変った雨乞行事 揖斐郡谷汲村名札の風習	岐阜夕刊	19580701
宮	飛騨水無神社式年大祭行事 58年ぶりに	毎日朝刊	19600502
揖斐川	カッパ祭りを復活 揖斐川町	岐阜夕刊	19610531
萩原	38年ぶりの大祭 萩原久津八幡宮	岐阜朝刊	19630323
岐阜	250年ぶりの行事 長良天神の御木びき祭	朝日朝刊	19630328
坂内	権現祭が復活 揖斐郡坂内村	岐阜朝刊	19640220
美濃加茂	郷土のうた 伊深音頭	毎日朝刊	19640608
高山	県指定文化財 高山市 祭り屋台「大台台」41年ぶり改修	岐阜朝刊	19650409
東濃	20年ぶり裏木曾でご神木祭 盛大な催し計画	中日朝刊	19650521
笠松	“谷汲しの”雨乞い踊り	岐阜朝刊	19721030
岐阜南	伝統文化保存に立ち上がる 県下各地	岐阜朝刊	19721030
笠松	魂生大明神に奉納 円城寺の「雨乞い踊り」	岐阜朝刊	19731104
笠松	記録映画で保存 絶やすまい雨乞い踊り 笠松町	岐阜朝刊	19731222
関	倉知祭り復活を市民の要望強まる	岐阜朝刊	19750327
富加	34年ぶり復活 富加町田の神祭	岐阜朝刊	19750403
神岡	神岡祭り 時代行列に徒士隊復活	岐阜朝刊	19750424
根尾	根尾の門脇雨乞い踊り	岐阜朝刊	19750720
各務原	10年ぶりに秋祭り 那加村上神社	岐阜朝刊	19750906
中津川	秋祭りに雅楽復活 中津川市8区の有志	岐阜朝刊	19751002
岐阜	岐阜市黒野の住吉踊り24年ぶり復活	岐阜朝刊	19751011

南本 有紀

場所	タイトル	新聞	年月日
岐阜	復活する本みこし 岐阜祭り	岐阜朝刊	19760402
坂田	20年ぶり神岡大祭 戦後初からくり人形展も	毎日朝刊	19760424
神	祝 20年ぶりに響く笛 太鼓 坂田町で岩谷観音	朝日朝刊	19760716
金山	タムに沈んだ故郷の神社が復活 金山卯野原の例祭	朝日朝刊	19770328
大野	祭りばやし30年ぶりに復活へ 大野町来振神社	朝日朝刊	19770329
中津川	花馬28年ぶり復活 中津川市中村八幡神社秋祭り	岐阜朝刊	19770925
岐阜	花電車24年ぶりに登場 信長祭り	朝日朝刊	19770929
兼山	8年ぶり山車登場 兼山町祭り、人形も新調	岐阜朝刊	19771016
根尾	10年ぶりに復活 根尾村の「梅見十一日祭」 17日盛大に 村文化財指定も	岐阜朝刊	19780128
根尾	ふるさとの祭り復活 吉凶占う「梅見十一日祭」 10年ぶりに村人大喜び	岐阜朝刊	19780218
根尾	根尾村の梅見十一日祭10年ぶり復活	岐阜朝刊	19780128
武儀	武儀町下之保西洞の春祭り50年ぶりにみこし登場	岐阜朝刊	19780323
古川	古川祭り36年ぶりにからくり人形	毎日朝刊	19780325
御嵩	御嵩町願興寺2年ぶりに祭り復活	岐阜朝刊	19780331
可児	可児町10数年ぶりに大旗祭り再現	岐阜朝刊	19780725
養老	養老町白山神社の祭り太鼓復活	岐阜朝刊	19780929
大垣	30年ぶりにしし舞う 荻神社祭り 大垣市	岐阜朝刊	19781017
岩村	岩村天満宮の学神祭30年ぶり復活	岐阜朝刊	19790222
萩原	萩原まつきか復活 夏祭り披露	岐阜朝刊	19790804
金山	金山町の夏祭りて民謡踊り復活	岐阜朝刊	19790817
多治見	多治見市 大日如来様復活て初例祭	朝日朝刊	19800309
高山	高山市 桜山八幡神社 56年5月に30年ぶり式年大祭	朝日朝刊	19800322
大和	9年ぶりに大神楽奉納 大和村多賀神社の祭り	岐阜朝刊	19800909
古川	28年ぶりに子供みこし 古川町天満宮の秋祭	朝日朝刊	19800916
八幡	17年ぶり大神楽が復活 八幡町の神明神社祭	岐阜朝刊	19801001
上宝	38年ぶりに湯花祭り 平湯 上宝町	朝日朝刊	19801004
高山	高山市 桜山八幡神社 56年5月に30年ぶり式年大祭	朝日朝刊	19810503
養老	養老神社 奈良時代ゆかりの若水取り祭復活しよう	朝日朝刊	19820205
上石津	上石津町の祭りばやし復活へ	朝日朝刊	19820221
高山	高山祭大國台 58年ぶり改修	岐阜朝刊	19820330
各務原	各務原市手力神社春祭りてけんかみこし 18年ぶり復活	朝日朝刊	19820411
柳津	柳津町尻門天神社秋祭り 26年ぶりにみこし	朝日朝刊	19821012
高山	飛騨天満宮2年後に30年ぶりの大祭	岐阜朝刊	19830409
大垣	大垣祭の駅前通りくまろ巡幸を復活	岐阜朝刊	19830424
神岡	神岡 40年ぶり神明神社の山の祭り	朝日朝刊	19831111
岩村	岩村町 20年ぶりに産業祭を復活	岐阜朝刊	19831115
高山	高山祭 100年ぶり石橋台でからくり人形	中日夕刊	19840305
古川	古川祭りの子供歌舞伎 110年ぶり	朝日朝刊	19840320
揖斐川	揖斐川町房島4区 30年ぶり村祭り	岐阜朝刊	19840417
美濃	美濃市 段町 20数年ぶりに山の講祭	岐阜朝刊	19841205
関	関市吉田雨乞い踊り 25年ぶり復活	岐阜朝刊	19841209
高山	飛騨天満宮式年大祭 30年ぶり	朝日朝刊	19850411
大和	大和村 白山神社で13年ぶり秋の大祭	朝日朝刊	19850904
池田	池田町 明和義民の供養祭式年祭37年ぶり	岐阜朝刊	19850917
白鳥	白鳥町 為善の白山神社 5年ぶりの祭り	朝日朝刊	19851010
岐阜	岐阜市 黒野町 住吉祭り復興の気運	岐阜朝刊	19860325
御嵩	御嵩町 蟹葉師願興寺の祭り3年ぶりに	岐阜朝刊	19860330
北方	北方町 住吉祭り復興力	岐阜朝刊	19860405
大和	大和町 13年ぶり大神楽奉納 白山熊野神社秋祭り	朝日朝刊	19860829
中津川	中津川市 中村の八幡神社 秋の例祭9年ぶり	朝日朝刊	19861007
八幡	芸能祭りに八幡小唄復活へ 友委会	朝日朝刊	19861015
岐阜	岐阜町白山神社例祭 町政30周年記念 歌舞伎芝居も復活	岐阜朝刊	19861024
高山	文化財 高山祭屋台青龍台牡丹彫刻(高山市)100年ぶり復元	毎日朝刊	19870331
古川	古川町 45年ぶり白山神社復活 黒内	岐阜朝刊	19870512
萩原	萩原町山崎の口 32年ぶり火祭り	朝日朝刊	19871110
本巣	本巣町法林寺で半世紀ぶりの山ごけ祭り復活	朝日朝刊	19880310
本巣	本巣町 旧徳山村民新神社で祭り復活	朝日朝刊	19880410
土岐	4年ぶり素人歌舞伎 土岐市福岡町の常盤神社	岐阜朝刊	19880417
高山	高山市飛騨総式年大祭 31年ぶり	毎日朝刊	19880430
北方	北方町 町制100周年で復活の壱祭り 主役の山車完成	岐阜朝刊	19890307
北方	北方町大井神社約30年ぶりに五穀祭の人形復活	朝日朝刊	19890309
岩村	岩村町 岩村城の弁財天を復活 還御祭	毎日朝刊	19890614
北方	北方町で壱祭り 30数年ぶり復活	朝日朝刊	19900312
関	関市 古式通りの行列 40年ぶりに復活の倉知	朝日朝刊	19900415
御嵩	御嵩の「蟹葉師祭り」彩る 山車100年ぶり復元へ	朝日朝刊	19900621
白川村	合紀先の平瀬で白川村馬狩神社のとぶろく祭復活	岐阜朝刊	19900926
高山	高山市 900年ぶり祭奉納 桜ヶ岡八幡宮の氏子が平塚へ	毎日朝刊	19901115
可児	可児市の八幡神社 祭り神楽40年ぶりに造り替え	岐阜朝刊	19920227
可児	可児市の八幡神社の祭り神楽45年ぶり新調	読売朝刊	19920403
大垣	「神楽くらま」の高欄部分43年ぶり修復14日	読売朝刊	19920508
中津川	中津川でおいでん祭の大ちようちん40年ぶり	朝日朝刊	19920708
高笠原	笠原町の神明神社例祭で33年ぶり馬登場	朝日朝刊	19921025
笠原	笠原松祭り4年ぶりに大名行列	朝日朝刊	19930410
北方	北方祭り50年ぶり復活	朝日朝刊	19930504
高山	高山日枝神社参道に高礼 38年ぶりの大祭告	毎日朝刊	19930617
板取	板取踊り復活、15日夏祭りへ	朝日朝刊	19930802
瑞浪	瑞浪のちようちん祭り38年ぶり復活	朝日朝刊	19930903
国府	国府町 阿多由太神社例祭9年ぶりに祭り行列	岐阜朝刊	19940423
真正	50年ぶりに雨乞い神事 真正町の物部神社 氏子たち天に祈る	読売朝刊	19940802
洞戸	50年ぶり雨乞い神事 洞戸・高賀神社 恵み求め踊り披露	朝日朝刊	19940813
各務原	雨乞い踊り披露 各務原の保存会	毎日朝刊	19950817
上之保	神への祈り通じた? 上之保村 50年ぶり雨乞いの儀式	岐阜朝刊	19950901

場所	タイトル	新聞	年月日
美並	「舟送り」が60年ぶり復活 美並村の星宮神社	岐阜朝刊	19951127
高山	高山祭 日枝神社のみこし180年ぶりに化粧直	朝日朝刊	19950408
福岡	福岡町 南宮神社で25年ぶりに生きた馬で花馬祭り	読売朝刊	19951002
八百津	八百津町の神社例祭 神馬と花馬20年ぶりに	朝日朝刊	19951130
岐阜	福井雅一さん 岐阜祭りて町衆が担ぐみこし ひど模様	朝日朝刊	19960125
穂積	きよま川南 美江寺観音で「お壱祭り」 35年ぶり 山車巡行	岐阜朝刊	19960301
八幡	八幡町の河鹿神社 秋の例祭で賞賞踊り3年	朝日朝刊	19960908
高鷲	高鷲村 白山神社 秋祭りて3年ぶりに大神楽	朝日朝刊	19960919
武芸川	武芸川町・花馬祭 武芸八幡神社保存会が伝統の笛復活	朝日朝刊	19970407
久々野	久々野町の「納涼夏祭り」で祭り屋台が11年ぶりにカムバック	朝日朝刊	19970814
久々野	久々野町 納涼夏祭り 11年ぶりに復活	岐阜朝刊	19970817
福岡	福岡町の庚申堂、6年ぶりの「御開扉祭事」	岐阜朝刊	19980312
萩原	萩原町の奇祭「山の講火祭り」30年ぶりに再開	朝日朝刊	19980319
大垣	大垣市の金生山神社の春の例祭「赤坂祭り」	岐阜朝刊	19980414
久瀬	久瀬村の中瀬古地区の山の神の祭り「山の講」開かれる 獅子神楽、40年ぶり後継者	岐阜朝刊	19990216
宮川	宮川村で宮川獅子祭り 4神社伝承の獅子舞が26年ぶりに競演	朝日朝刊	19990608
神戸	神戸町横井の地蔵祭で、美濃の伝統文芸「狛奔奉燈」が48年ぶりに復活	岐阜朝刊	19990722
岐阜	岐阜市の精華中学校体育祭で、担ぎ手のいなし 北野神社と数田神社の2台復活	毎日朝刊	19990923
高山	飛騨高山の秋の高山祭「布袋台」 50年ぶり生演奏	朝日朝刊	19990928
高山	秋の高山祭10月10日最終日、100年ぶりの修理を終えて「豊明台」4年ぶり復活	朝日朝刊	19991011
岐阜	岐阜市の六所神社に伝わる祭り、20年振りに復活	岐阜朝刊	20000403
美濃加茂	美濃加茂市下町おはし会は太郎神社の例祭	朝日朝刊	20000405
高山	高山祭の屋台「龍神台」120年ぶりの修理	朝日朝刊	20000415
八百津	八百津町の八百津祭りのため10年ぶりに山車	岐阜朝刊	20000526
白鳥	白鳥町の三輪神社の祭りが8・9日行われる 大神楽が5年ぶりに奉納される	朝日朝刊	20001004
大和	大和町の七代天神社と白山神社の祭りで10年	朝日朝刊	20001008
可児	可児市教育委員会主催「可児地歌舞伎祭」開 地歌舞伎が復活	毎日朝刊	20010126
中津川	第19回中津川市文化祭を開催、「吉例歌舞伎大会」では30年振りに「増補八百屋献立 新朝八百屋」を復活公演	朝日朝刊	20010305
高山	春の高山祭り 鳳凰台生演奏、60年ぶりに復活	朝日朝刊	20010415
高山	高山祭の「龍神台」120年ぶり全面修理	朝日朝刊	20010415
坂祝	坂祝町・岩屋観音例祭夏まつりの主役・勝山の山車を復活させよう 勝楽会は山車をミニ山車に復元し夏まつりに登場させる	岐阜朝刊	20010710
坂祝	坂祝町勝山地区で15日に行われる「岩屋観音音楽礼」に42年ぶりに山車が復活	朝日朝刊	20010715
大和	大和町 金銀神社祭りで大神楽と嘉音踊りが12年ぶりに奉納される	朝日朝刊	20011007
八幡	八幡町の神明神社周辺で「豊年祭り」が4年ぶりに催される	朝日朝刊	20011012
白川町	白川町-佐長田神社 春季大祭 60年ぶりに花馬が復活	岐阜朝刊	20020416
中津川	中津川市の八幡神社の例祭大花馬が約40年ぶりに復活	朝日朝刊	20021006
恵那	中津川市制50周年・姫街道400年祭を記念し 恵那文楽10年ぶり公演	岐阜朝刊	20021102
柳津	柳津・慈恵寺の観音堂ちようちん祭り 40年ぶりに復活	朝日朝刊	20030809
美並	美並村で円空供養祭と数年ぶりに柴灯籠摩供	朝日朝刊	20030818
揖斐川	揖斐川町小島地区で中学生らの努力で夏祭り	岐阜朝刊	20030827
白鳥	白鳥町の八幡神社と白山神社で7年ぶりに祭りが行われる	岐阜朝刊	20031005
高山	1 職人気質 木と語り合う宮大工 2 復活の音色 お囃子指導 広がる輪	朝日朝刊	20031005
高山	5 伝承の技 7年ぶりに後継者	朝日朝刊	20031009
本巣	本巣市の長屋神社の「馬かけ祭り」(県重要無形民俗文化財)で使われる馬具(鞍)300年ぶりに新調	岐阜朝刊	20040731
岐阜	柳ヶ瀬夏祭り 柳ヶ瀬音頭16年ぶり復活	岐阜朝刊	20040802
坂祝	坂祝町の神明神社例祭で勝山祭保存会のメンバーが同神社に奉納する祭りばやしを約半世紀ぶりに復活	岐阜朝刊	20050403
古川	飛騨市古川町の春の例祭で御神輿巡行が22年ぶりに復活	岐阜朝刊	20050424
郡上	郡上市の白山神社で祭り開催 30年ぶりに伊勢神楽奉納	岐阜朝刊	20050529
各務原	各務原市の加茂美神社でけんかみこし37年ぶりに復活 例祭で模倣演奏	岐阜朝刊	20050928
高山	秋の高山祭 からくり人形30年ぶりに新調	岐阜朝刊	20050929
海津	海津市青年団体連絡協議会が地元山車の35年ぶりに復活 高工業感謝祭披露	岐阜朝刊	20051023
高山	春の高山祭りきょう開扉 青龍台が3年ぶり復活	岐阜朝刊	20060414
岐阜	岐阜市加野地区の「水神祭」で提灯行列復活	岐阜朝刊	20060702
土岐	土岐市駅前区低園祭りで約23年ぶりに「つくり物」大会復活	岐阜朝刊	20060806
高山	秋の高山祭、屋台「行神台」で30年ぶりに祭りばやし生演奏が復活	岐阜朝刊	20061001
高山	秋の高山祭、屋台「行神台」で28年ぶりに祭りばやし生演奏が復活	岐阜朝刊	20061011
神岡	飛騨市神岡町「手吉舞」行列40年ぶり再現	岐阜朝刊	20070214
古川	古川祭 祭り屋台のからくり人形、30年ぶり	岐阜朝刊	20070405
七宗町	七宗町の白檜社神原神明神社で約50年ぶりに春の例祭、開催	岐阜朝刊	20070408
古川	古川祭が開幕 祭り屋台のからくり人形、30年ぶりに新調 乱舞	岐阜朝刊	20070420
中津川	中津川おいでん祭 5年ぶり大ちようちん復活	岐阜朝刊	20070803
瑞浪	瑞浪市の「泥染師如來」の泥落とし供養祭 400年ぶり拜願	岐阜朝刊	20081021
高山	高山市の飛騨天満宮で遷座祭 晴彦社、53年ぶりに新築	岐阜朝刊	20080921
中津川	中津川市・八幡神社例祭 流鏝馬130年ぶりに奉納	岐阜朝刊	20091006
揖斐川	揖斐川町の北方神社で五穀豊穣に感謝する新嘗祭が48年ぶりに復活 女子児童が「みこ舞」	岐阜朝刊	20091125
高山	高山市 桜山八幡宮で来年、30年ぶり式年大祭 濃飛抄	岐阜朝刊	20100423
高山	高山祭の鳳凰台、100年ぶりの改修完了	岐阜朝刊	20100906
高山	高山祭 4年ぶりに「鳳凰台」が登場	岐阜朝刊	20101008
美濃	大矢田ひびこ祭り 35年ぶり、人形新調へ	岐阜朝刊	20101114
各務原	中国人殉難者を追悼 各務原市 慰霊祭復活	岐阜朝刊	20101124

復活する祭礼と民俗芸能 東日本大震災と岐阜県の事例から

場所	タイトル	新聞	年月日
揖斐川	140年前に途絶えた「ねそね祭り」 伝統芸能創作劇で復活 揖斐川町・北方神社	岐阜朝刊	20110419
揖斐川	「ねそね祭り」140年ぶりに復活 揖斐川町・北方神社古文書など調査も	中日朝刊	20110419
高山	高山市の桜山八幡宮の式年大祭の御渡、30年ぶり	岐阜朝刊	20110503
高山	桜山八幡宮 30年ぶり式年大祭	岐阜朝刊	20110508
高山	高山市の桜山八幡宮、30年ぶりに式年大祭	岐阜朝刊	20110508
美濃加茂	美濃加茂市・旧伊深村「伊深音頭」半世紀ぶり	岐阜朝刊	20110821
根尾	地域の絆を結び直す 盆踊り復活や鐘突き堂再建	岐阜朝刊	20110826
羽島	地元の伝統 復活に情熱 羽島雨乞い踊り保存会 江戸に起源、若い世代に継承を	岐阜朝刊	20110904
白鳥	郡上市白鳥町の3神社(日吉・八幡・白山)	岐阜朝刊	20110928
高山	高山祭「布袋台」で10年ぶりに生のおはやし	岐阜朝刊	20111012
大垣	大垣祭り「浦嶋やま」が67年ぶりに再建	岐阜朝刊	20120321
高山	春の高山祭「三番巻」鮮やかに からくり人形、94年ぶり新調	岐阜朝刊	20120402
高山	「三番巻組」からくり人形 94年ぶり復元新調 春の高山祭で奉納	中日朝刊	20120402
高山	高山祭へ おはやし稽古「麒麟台」、25年ぶり生演奏	岐阜朝刊	20120410
高山	神楽舞50年ぶり復活 春の高山祭で奉納 勇ましく、男児2人が披露	岐阜朝刊	20120415
高山	雨に映えるからくり 春の高山祭、94年ぶり	岐阜朝刊	20120415
高山	高山祭りで神楽舞が約50年ぶりに復活	岐阜朝刊	20120415
気良	気良白山神社(郡上市)祭礼の余興「気良歌舞伎」、郡上市明宝気良の若者たちにより17年ぶりに復活	岐阜朝刊	20120924
高山	高山祭初日の14日、30年ぶりに川原町に祭り	岐阜朝刊	20130416
明宝	明宝の「寒水踊り」 三十数年ぶり復活へ	中日朝刊	20130804
山県	山県市戸出地区で、30年ぶりに夏祭り開催	岐阜朝刊	20130817
高山	高山祭の屋台「金風台」が43年ぶりに復活	岐阜朝刊	20130915
揖斐川	揖斐川町・北方神社で3年前に創作劇として復活した「ねそね祭り」の稽古が、20日の本番を前に実施	岐阜朝刊	20140418
宮	飛騨一宮水無神社(高山市一之宮町)の例祭 御神幸式行列が3年ぶり開催	岐阜朝刊	20140503

場所	タイトル	新聞	年月日
明宝	復活2年目「寒水踊り」	中日朝刊	20140816
荘川	そらった踊り子9年ぶり舞台 高山市「ひねりの舞」	岐阜朝刊	20140919
大和	大和町の七代天神社14年ぶりに大祭 郡上市「太神楽・八幡踊り」奉納	岐阜朝刊	20140913
大和	郡上市・明建神社で21年ぶり奉納へ 「放掛踊り」歌い継げ	岐阜朝刊	20140927
白鳥	浦安の舞優雅に初披露 郡上の白鳥神社秋の例祭	中日朝刊	20140930
大和	掛鐘21年ぶりに奉納 郡上・大和明建神社「しない」背負い練る	中日朝刊	20141005
荘川	「ひた荘川ふるさと祭り」で4年ぶりに披露 高山市合併10周年記念として制作された替え	岐阜朝刊	20141015
大和	七代天神社大祭で14年ぶり舞と踊り	中日朝刊	20141015

※場所は平成の大合併前の旧市町村名

記事の内容から、戦後復興期の1930年代、盆踊りや民謡が流行した1940年代、昭和の大合併(昭和28年(1953)～36年(1961)で市町村数が1/3になった)で都市への人口流出が始まった1950年代の3回の復活ブームがあったことがわかる。

また、ここには掲載しないが、同様に保存会結成に関する記事を一覧にしたところ、1940年代・1件、1950年代・4件、1960年代・4件、1970年代・10件、1980年代・17件、1990年代・10件、2000年代・2件、2010年代・4件を数えた。

表4 年表(祭礼復活)

西暦	和暦	できごと
1900年代		ドイツ語Volkslied・英語Folk-songからの訳語「民謡」が定着
1900～10年代		民謡調査とアンソロジー刊行が盛ん
1911	明治 44	柳田国男「踊の今と昔」(『人類学雑誌』3001～305)
1920年代		民謡運動が復興、新民謡運動で創作民謡が隆盛
1920	大正 9	世界恐慌
1922	大正 11	大日本民謡研究会設立
1923	大正 12	関東大震災
1925	大正 14	日本青年館で第1回「郷土芸能と舞踊の会」(のち全国民俗芸能大会)(～1936) ラジオ放送開始、民謡番組を編成
1926	大正 15	柳宗悦が民芸運動を展開
1927	昭和 2	民俗芸術の会発足
1928	昭和 3	学術雑誌「民俗芸術」発刊(～1932)
1930年代		盆踊りブーム 民芸ブーム
1931	昭和 6	満州事変、東北・北海道凶作で「身売り」が社会問題化
1934	昭和 9	日本民芸協会発足
1935	昭和 10	民間伝承の会発足
1936	昭和 11	日本民芸館開館
1937	昭和 12	日中戦争勃発により盆踊り禁止
1942	昭和 17	盆踊り復活(内務省布告)
1945	昭和 20	戦後レクリエーション活動として民謡復興
1941	昭和 16	アジア太平洋戦争(～1945)
1945	昭和 20	文部省芸術祭開始
1946	昭和 21	文部省次官通達「公民館の設置運営について」
1947	昭和 22	高山盆踊り保存会・白鳥踊り保存会結成
1949	昭和 24	日本民俗学会発足
1950年代		民芸ブーム
1950	昭和 25	文化財保護法制定、無形文化財の選定助成制度開始 日本青年館で第1回全国郷土芸能大会
1952	昭和 27	「郷土舞踊」「郷土芸能」に替わって「民俗芸能」が用いられるように 文化庁芸術祭で日本民謡まつり、以後、毎年開催
1954	昭和 29	文化財保護法改正、重要無形文化財の指定認定・無形文化財の選定・無形民俗資料の記録選択制度開始 民俗芸能の保護が行政主導・保存会形式に移行
1955	昭和 30	文化財保護委員会が無形の民俗資料記録作成開始
1956	昭和 31	昭和の大合併(～1961)
1957	昭和 32	文化財保護委員会「都道府県における民俗芸能指定等の参考草案」
1958	昭和 33	宝塚歌劇団・郷土芸能研究会が民俗芸能を舞台化、以後20年間
1960～70年代		民芸ブーム最盛期
1959	昭和 34	第1回ブロック別民俗芸能大会
1964	昭和 39	東京オリンピック、第15回全国民俗芸能大会を芸術展示に位置づけ
1965	昭和 40	宮本常一企画・監修ドキュメンタリー「日本の詩情」(～1966) 文化庁「無形の民俗資料記録」第1集(～1971)
1967	昭和 42	日本観光文化研究所「あるくみるさく」創刊(～1988)
1968	昭和 43	文化庁設立 アジア民族芸能祭で民俗芸能公開
1969	昭和 44	文化庁「無形の民俗資料記録 芸能編「民俗芸能」」(～1974)、ブロック別民俗芸能大会記録を集成
1970年代		首長部局に文化課・文化振興課を設置 自治体による文化ホール(多目的ホール)隆盛 戦争等で中絶した民俗芸能の復活が盛んに

南本 有紀

西暦	和暦	できごと
1970	昭和 45	「ディスカバー・ジャパン」キャンペーン 大阪万博、「日本の祭り」で民俗芸能公開
1972	昭和 47	民俗芸能の記録選択開始 大阪文化振興研究会、行政課題としての文化・文化行政が組上に ユネスコ世界遺産条約（自然遺産・文化遺産・複合遺産）を採択
1973	昭和 48	日本交通公社「るるぶ」創刊
1974	昭和 49	全日本郷土芸能協会設立 国立民族学博物館開館
昭和 50 年代		民俗芸能のイベント公演が盛んに
1975	昭和 50	文化財保護法改正、無形民俗文化財の指定選択制度開始、以後、民俗芸能の指定が活況 重要無形民俗文化財指定基準を公示
1970 年代後半		東京一極集中、「地域おこし」「まちづくり」がいわれはじめる 「地方の時代」
1976	昭和 51	民族文化映像研究所設立 平野文明「無形民俗資料の収集・利用の意義と問題点」（『日本民俗学』106） 日本民謡まつり・アジア太平洋うたとおどりの祭典（～1994） 高山屋台保存会結成
1978	昭和 53	大平正芳政策研究会（田園都市国家構想）で「地方の時代」「文化の時代」提唱 春慶塗 春慶技術保存会結成
1979	昭和 54	一村一品運動
1981	昭和 56	サントリー地域文化賞創設 第 1 回文化行政シンポジウム 音声・映像記録も対象にした無形民俗文化財記録作成事業費国庫補助 国立歴史民俗博物館開館 儀礼文化学会発足
1983	昭和 58	文化庁が地域文化功労者表彰を開始
1984	昭和 59	民俗芸能学会発足
1985	昭和 60	つくば科学博、民俗芸能公開
1988	昭和 63	ふるさと創生一億円事業
1990	平成 2	岐阜県地域活性化対策協議会「地域活性化のための伝統文化（民話・伝説）調査報告書」 「民俗芸能研究」12 号特集「民俗芸能の舞台上演をめぐる」 第 1 回全国各地芝居サミット 民俗芸能研究会 第一民俗芸能学会（～1991）
1991	平成 3	バブル崩壊
1992	平成 4	日本がユネスコ世界遺産条約締結 地域伝統芸能等を活用した行事の実施による観光及び特定地域商工業の振興に関する法律（おまつり法） 民俗芸能学会大会シンポジウム「民俗芸能とおまつり法」 愛知大学総合郷土研究所講演会「過疎が及ぼす民俗芸能への影響」 第 1 回 YOSAKOI ソーラン祭り
1993	平成 5	民俗芸能学会大会シンポジウム「民俗芸能の継承・断絶・再生」 第 1 回地域伝統芸能全国フェスティバル
1995	平成 7	阪神・淡路大震災による「ボランティア元年」、多文化共生・NPO/NGO 活動が盛んに 白川郷・五箇山の合掌造り集落を世界遺産に登録
1996	平成 8	国際民俗芸能フェスティバル（～2010）
1998	平成 10	全国各地芝居連絡協議会発足 全国獅子舞フェスティバル開始
1999	平成 11	平成の大合併（～2006）
2000	平成 12	第 1 回東京国立文化財研究所民俗芸能研究協議会、テーマは「復活と継承」 第 1 回全国こども民俗芸能大会 総合的な学習の時間（総合学習）導入、段階的に開始 第 12 回民俗芸能学会シンポジウム「民俗芸能大会のこれまでとこれから」
2001	平成 13	民俗芸能指導者研修会 ふるさと文化再興事業（～2010）
2002	平成 14	安藤直子「地方都市における観光化に伴う「祭礼群」の再編成」（『日本民俗学』231）
2003	平成 15	ユネスコ無形文化遺産条約を採択 東京文化財研究所・無形の民俗文化財映像記録作成小協議会 東京文化財研究所・伝統文化活性化国民協会が無形文化財記録所在アンケート調査（～2004） 民族文化映像研究所から「日本の姿」シリーズ 日本民俗学会ミニシンポジウム「民俗調査の現場から 変貌する現代社会と民俗学」森茂茂一「近代都市の災害と地蔵 まち創造における民俗学の役割」 伝統文化子ども教室（～2010、以後、伝統文化親子教室）
2004	平成 16	日本がユネスコ無形文化遺産条約を締結 愛知大学総合郷土研究所講演会「まつりのふるさと・どうする故郷」 伝統文化研修セミナー開始 文化財保護法改正により文化的景観・民俗技術が保護対象に 第 1 回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト（國學院大学）
2006	平成 18	東京文化財研究所改組により芸能部が無形文化遺産部に 橋本裕之「民俗芸能研究という神話」 金賢貞「無形民俗文化財指定と新たな民俗芸能の創出」（『民俗芸能研究』41） 東京文化財研究所が無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（～2010） 東京文化財研究所「民俗芸能の上演目的や上演場所に関する調査研究報告書」 澁谷美紀、農業・生物系特定産業技術研究機構「民俗芸能の伝承活動と地域生活」 平成の大合併終了、以後、祭礼の簡略化（民俗芸能休止・神事のみ）が進む
2007	平成 19	第 1 回全国高校生歴史フォーラム（奈良大学） 大島映雄「無形民俗文化財の保護 無形文化遺産保護条約にむけて」 俵木悟「無形民俗文化財映像記録の有効な保存・活用のための提言」（『無形文化遺産研究報告』1） 花祭り（愛知県）17ヶ所のうち2ヶ所の伝承地で休止
2008	平成 20	文化庁・変容の危機にある無形の民俗文化財の記録作成の推進事業 東京文化財研究所「無形民俗文化財映像記録作成の手引き」刊行・配布 日本がユネスコ無形文化遺産第 1 回申請 民俗芸能学会第 121 回研究例会「民俗芸能を活用した町づくり 備中神楽の継承の一形態」 『月刊文化財』540 特集「民俗芸能の公開について ブロック別民俗芸能大会 50 回を記念して」

復活する祭礼と民俗芸能 東日本大震災と岐阜県の事例から

西暦	和暦	できごと
2009	平成 21	日本民俗学会公開シンポジウム「民俗の『創造性』と現代社会」 角美弥子「無形の文化財としての芸能の保存・継承に係る保護制度の運用に関する一考察」(『音楽芸術マネジメント』1) 星野紘「村の伝統芸能が危ない」 ユネスコ無形文化遺産に各国推薦が始まる、指定文化財からの順次推薦方針
2010	平成 22	文化庁・地域伝統文化総合活性化事業 文化庁・ふるさと文化再興事業 文化庁・伝統文化こども教室事業 岐阜県で「ふるさと教育週間」設定 『日本民俗学』264 小特集「民俗学と記録映像」 福田裕美「民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究I」(『音楽芸術マネジメント』2)
2011	平成 23	東日本大震災 日本民俗学会東日本大震災関係シンポジウム「震災の記憶と語り 民俗の再生へ向けて」 民俗芸能学会が福島県域の無形の民俗文化財被災調査(～2013) さいたま民俗文化研究所等が東日本大震災民俗文化財現況調査(若手県)(～2012) 東北大学等が東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査(宮城県)(～2012) 民俗芸能学会第136回研究例会「東日本大震災被災地の民俗文化財報告会」 福田裕美「民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究II」(『音楽芸術マネジメント』3)
2012	平成 24	文化庁・文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 日本民俗学会第864回談話会「映像民俗学の新展開」遠藤協「えんずのわりの子どもたち 東松島市宮戸島における震災と民俗行事の再建」 岐阜県で「岐阜県ふるさと教育表彰」表彰開始 第8回全国高校生歴史フォーラムから奈良県・奈良大学共催に 『日本常民文化紀要』29 特集「歴史教育と文化財の保存・活用をめぐる研究」 星野紘「過疎地の民俗芸能の再生を願って」
2013	平成 25	東北大学東北アジア研究センターシンポジウム「民俗芸能と祭礼からみた地域復興」 ユネスコ無形文化遺産第5回審査で「和食」を登録、指定外からの推薦 日本民俗学会国際シンポジウム「無形文化遺産政策のホットスポット・中国」 日本民俗学会第870回談話会「映像記録作成のあり方 無形民俗文化財の保護手法」 東京文化財研究所「無形文化遺産情報ネットワーク」第1回協議会 無形文化遺産情報ネットワークが無形文化遺産マップをネット公開
2014	平成 26	ユネスコ無形文化遺産第6回審査で「和紙」を拡張・一括申請、登録 無形文化遺産情報ネットワーク『東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興』

※出典

- 星野紘,2012, 過疎地の伝統芸能の再生を願って 現代民俗芸能論, 国書刊行会
- 村上忠喜,2013, 文化財保護と民俗 これまでの歩みと今後の課題 (八木透, 新・民俗学新・民俗学を学ぶ 現代を知るために, 昭和堂)
- 檜皮瑞樹,2014, 柳宗悦・民芸運動と苗代川の近代 (久留島浩他, 薩摩・朝鮮陶工村の四百年, 岩波書店)
- 小島多恵子,2014, ふるさとをつくる アマチュア文化最前線, 筑摩書房
- 齋藤裕嗣,2008, 無形民俗文化財(民俗芸能)の公開 ブロック別民俗芸能大会を中心に (月刊文化財 540号,2008年9月)
- 俵本悟,2010, 無形民俗文化財の記録作成 (東大研ニュース 43号,2010年)
- 川野裕一朗,2014, 文化財行政の抱える問題 島根県佐陀神能の事例から (社会学研究紀要 77号,2014年)
- 坪井秀人,2006, 感覚の近代, 名古屋大学出版会
- 星野紘,2007, 世界遺産時代の村の踊り 無形の文化財を伝え遺す, 雄山閣
- 川村清志,2013, 近代に生まれた「民謡の里」 妻屋節とこきりこ唄を中心に (青木隆浩, 地域開発と文化資源, 岩田書院)
- 郡上おどり史編纂委員会,1993, 歴史でみる郡上おどり, 八幡町
- 朝日朝刊 19470816
- 岐阜朝刊 19510908
- 岐阜朝刊 19530214
- 藤本愛,2011, 無形民俗文化財の調査記録に関する提言 奈良県の祭り・行事および民俗芸能の調査を通して (奈良女子大学文学部研究教育年報 8号,2011年8月)
- 曾我部一行他,2007, 『人類学雑誌』考 民俗学の揺籃期 (成城文藝 201号,2007年12月)

年表(表4)と照らし合わせると、社会変動・経済政策と文化財保護政策と地域の民俗芸能復興が連動していることが窺えるのではないだろうか。

ところで、民俗芸能の周辺として民謡と民話に目を転じれば、同様の傾向を指摘できる。ここでは、先行研究に詳しい民謡(とくに新民謡運動)については省略して、伝説・民話について見ていこう。

表5によれば、1950年代から90年代にかけて100を超えるような長大なシリーズ連載が、新聞紙上を飾ったようすが窺える。これらの連載は掲載終了後、伝説・民話集として刊行される場合が多く、それを反映して、1970～80年代にこうした郷土伝説・民話集の刊行が相次いでいる。そういえば、当時、観光地ではご当地民話集が土産物店に並んでいたことを思い出す。民謡・民話・民俗芸能は連動して、地方にひとつひとつの「心のふるさと」を見出していた¹⁹⁾のである。

表5 新聞連載(伝説)

連載	紙面	時期
伝説めぐり	岐阜朝刊	1951-08～08
山の伝説	毎日朝刊	1952-07～08
濃飛伝説百話	岐阜朝刊	1953～1954-04
続濃飛伝説百話	岐阜朝刊	1955～
東海伝説の旅	朝日夕刊	1956-01～02
美濃・飛騨伝説の旅	毎日朝刊	1957-09～12
郷土の伝説	毎日朝刊	1969-04～1971-12
伝説・民話 ふるさとの民話	毎日朝刊	1978-05～1979-12
伝説・民話 お母さんが集めた可児の昔話	岐阜朝刊	1979-01～04
飛騨の昔話	中日朝刊	1984-08～10
続・飛騨の昔話	中日朝刊	1985-01～
飛騨の昔話 (※新シリーズ)	中日朝刊	1986-01～02
ふるさと民話伝説シリーズ	岐阜朝刊	1989-07～09
西美濃伝説紀行 夜叉ヶ池の雨乞い伝説	岐阜朝刊	1997-05～08
古里讃歌 飛騨点々累々伝説	岐阜夕刊	1999-01～02

4 郡上の風流踊り

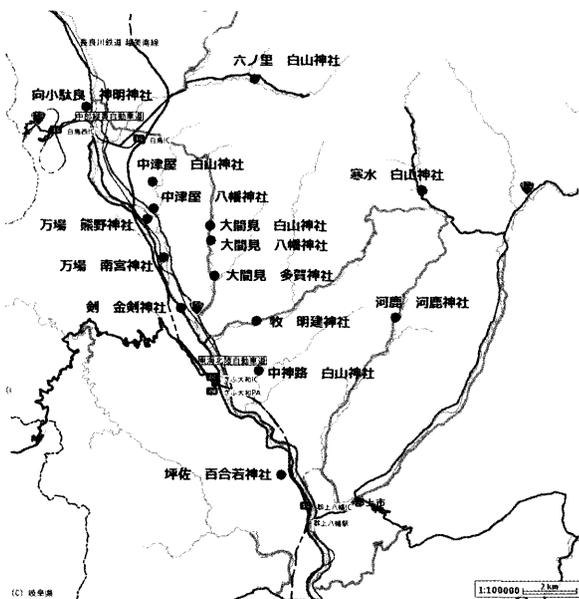
最後に、不定期挙行を繰り返しながら、伝承されてきた郡上市の風流踊り（掛踊り・大神楽）について概説する。前節の復活とは別の文脈の現象である。

これは、芸能史では、中世の「風流拍子物」に由来するもので、太鼓と鉦を打ち鳴らしながら踊る風流踊りの「中踊り」と、その外側を仮装姿の手踊りが輪踊りの「側踊り」となって取り囲む芸能である。後者は、近世、独立して盆踊りに展開したといわれる²⁰。

表6 郡上の掛踊り一覧

町	集落	神社	大神楽	伊勢神楽	掛踊り	備考
明宝	寒水	白山神社 寒水1203			○	母袋より伝播
八幡	河鹿	河鹿神社 初音河鹿1087-2	×	×	△	3年おき 賀喜踊り、寒水または中神路より伝播 昭和初期まで夜公演の伊勢神楽は吉田より伝播
八幡	坪佐	百合若神社 有坂字炭電177	×	×	△	10または十数年おき、慶事・祝典時 神路より伝播
大和	中神路	白山神社 神路2050		△	×	△(1977)→×
大和	牧	八幡神社 水神社 明建神社 牧817-1 白山神社 八幡神社		△	△	寒水より伝播 試案:元兼八幡・木蛇寺水神・明建 本案:三田白山・三田八幡・明建
大和	剣	金剣神社 剣325-1	△	△	△	○(1977)→△
大和	口大間見	多賀神社 大間見312-1 八幡神社 大間見719 白山神社 大間見863-1			△	
大和	万場	熊野神社 万場670 南宮神社 万場2273-1			△	
白鳥	中津屋	白山・八幡神社	△	×	△	嘉喜踊り
白鳥	向小駄良	神明神社 向小駄良551	△		△	
白鳥	六ノ里	白山神社 六ノ里1504	△		△	3~5年おき

図2 郡上の掛踊り伝承地



腹部に太鼓を抱えて踊る太鼓踊りは、近畿地方を中心に広く分布しており、岐阜県内でも滋賀県境に濃厚である。郡上の掛踊りもそうだが、雨乞い踊りの伝承を持つものが多い。雨乞いの願掛けのため不定期に舞われたといわれている。

郡上市内では11ヶ所にこの「掛踊り」が伝承しており、毎年上演する1ヶ所を除いて3年~数十年の不定期上演を行っている。そのようすを、年表(表7)で示した。歴史的には、60年に一度とされる伊勢神宮の御嶽祭り の神賑で行われることが多かったが、慶事祝賀でもたびたび奉納されている。

表7 年表(掛踊り)

西暦	和暦	場所	できごと
1498	明応7	(白鳥)	(大神楽奉納)
1559	永禄2	河鹿	東殿山城落城(遠藤盛数が常楽を滅ぼす)戦勝報告を契機に開始
1600	慶長5	中津屋	関ヶ原合戦東軍勝利を祝って嘉喜踊り開始
1667	寛文7	(小野)	(大神楽・奴踊り奉納)
1682	天和2	御嶽神が郡上巡村①	神路から踊りかける(剣の掛踊り発祥)、後に廃絶
1687	貞享4	寒水	奥の宮棟札
1703	元禄16	(御嶽祭り)	
1709	宝永6	寒水	母袋(または枋洞)から観音像・掛踊りが伝わる
1742	寛保2	御嶽神が郡上巡村② 河鹿	大間見から踊りを掛ける 御嶽祭り奉納 母袋・東保・牧では田打ち踊り等で御嶽神送迎
1764	明和1	牧	奉納(太鼓記銘)
1767	明和4	(御嶽祭り)	
1770	明和7	牧	奉納(太鼓記銘)
1781	天明1	寒水	奉納
1789	寛政1	牧	奉納
1795	寛政7	寒水	奉納
1797	寛政9	牧	奉納
1802	享和2	御嶽神が郡上巡村③ 河鹿 口大間見	御嶽祭り奉納 雨乞い奉納 奉納 栗巣筋(中神路)が御嶽祭り総取り持ちで掛踊り奉納
1809	文化6	中津屋	北海道国泰寺万全により再興
1811	文化8	牧	奉納
1813	文化10	牧	奉納
1820	文政3	寒水	奉納
1821	文政4	牧	奉納
1825	文政8	牧	奉納
1827	文政10	(御嶽祭り)	
1828	文政11	御嶽神が郡上巡村④ 牧	御嶽祭り奉納 明建神社で刃傷事件のため掛踊り再建へ口大間見・小間見(合同)、剣で掛踊り奉納
1830-43	天保年間	寒水	東保村庄屋宛祭礼招待状
1830	天保1	寒水	このころ大名行列が加わる
1840	天保11	牧	奉納
1844	弘化1	牧	明建神社落慶、芸神楽(伊勢神楽)奉納
1846	弘化3	牧	掛踊り派と芸神楽派が対立
1849	嘉永2	牧 中津屋	少人数での挙行、雨天順延を届出 拍子打・鞆鼓記銘
1859	安政6	御嶽神が郡上巡村⑤	中神路・栗巣筋(母袋・西保・東保・牧総取り持ち)で掛踊り
1862	文久2	御嶽神が郡上巡村⑥	掛踊り記録なし
1868	慶応4・明治1	寒水	神仏判然令により掛踊り奉納が数十年中絶
1875	明治8	寒水	八朔から10月1日に祭礼日を変更
1877	明治10	牧	奉納
1887	明治20	寒水	演劇興行を契機に掛踊り復活を計画
1888	明治21	(御嶽祭り)	奉納
1893	明治26	寒水	北海道移住に際し、復活関連資料を書写
明治末		寒水 寒水	このころまで母袋から拜殿踊り、踊り納めに参加 祭礼日を現行9月に変更、奥の宮奉納から観音遷座に

西暦	和暦	場所	できごと
1913	大正2	中神路 河鹿	雨乞いのため嘉喜踊り奉納、以後雨乞い歌は封じ文に5社を合祀
1914	大正3	河鹿	中絶後、合祀を機に毎年奉納するように
1915	大正4	牧	大正天皇御大典祝賀で奉納
1916	大正5	寒水	復活関連資料を再度書写
1922	大正11	牧 剣	奉納 口大間見より嘉喜踊り伝播
昭和初期		河鹿 寒水 寒水	このころまで夜は伊勢神楽「掛踊り」の表記を採用 大名行列(ひねり奴)を入れるが、取りやめ
1928	昭和3	牧	奉納
1936	昭和11	牧	奉納(太鼓記録)
1947	昭和22 (御鉾祭り)		
1948	昭和23	牧	戦後復興祈念で「嘉喜踊り」奉納
昭和25~30年		寒水	大名行列が一時復活
1957	昭和32	万場	中津屋より嘉喜踊りを伝播
1958	昭和33	牧	「嘉喜踊り」奉納
1959	昭和34	中津屋	岐阜県重要無形文化財(のち重要無形民俗文化財)に指定
1960	昭和35	寒水	掛踊り保存会発足
1962	昭和37	寒水	岐阜県重要無形文化財(のち重要無形民俗文化財)に指定
1967	昭和42	寒水	「掛踊り調査報告書」刊行
1970年代		河鹿	このころから3年に1度奉納
1970	昭和45	剣	剣で嘉喜踊り・大神楽を奉納
1971	昭和46	河鹿	3年ぶり、略式に奉納、雨天のため中止
1973	昭和48	口大間見 (下栗巣) (柳町)	口大間見で22年ぶりに奉納 (下栗巣で19年ぶりに大神楽奉納) (岸剣神社の大神楽を県重要無形文化財(のち重要無形民俗文化財)に指定)
1974	昭和49	河鹿 寒水	正式に奉納 国選択民俗芸能(のち無形民俗文化財)に選定
1975	昭和50	中神路	25年ぶりに嘉喜踊り奉納
1976	昭和51	万場 (奥大間見)	嘉喜踊り奉納 (19年ぶりに大神楽奉納)
1977	昭和52	牧	19年ぶりに奉納、女子も参加
1978	昭和53	剣 (小間見)	大神楽・嘉喜踊り・金神太鼓(石川県鶴来より伝播)奉納 (30年ぶりに大神楽奉納)
1979	昭和54	(島)	(大神楽・八幡踊りを奉納)
1980	昭和55	(島谷若宮)	(日吉神社大神楽を県重要無形民俗文化財に指定)
1985	昭和60	(口神路)	(口神路で大神楽奉納)
1987	昭和62	(名血部)	(名血部で大神楽奉納)
1990	平成2	(島)	(島で大神楽・八幡踊りを奉納)
1991	平成3		(郡上おどり)400年祭
1993	平成5	牧	皇太子御成婚祝賀で奉納
1997	平成9	(小野)	(小野八幡神社祭礼を県重要無形民俗文化財に指定)
2000	平成12	(島)	(島で大神楽・八幡踊りを奉納)
2007	平成19 (御鉾祭り)		
2010	平成22	寒水	9月第2土日に祭礼日を移動
2011	平成23	(二日町)	(大神楽・八幡踊りを4年ぶりに奉納、合祀100年・花火200年を記念)
2014	平成26	河鹿 牧 (島)	河鹿で賀喜踊り奉納、前回雨天のため6年ぶりの開催 牧で掛踊りを21年ぶりに奉納、記録上20回目、神社創建700年を記念 (島で大神楽・八幡踊りを14年ぶりに奉納)

表中、掛踊り以外の民俗芸能については()書にした

※出典
 和田清美,2011,明宝寒水史
 太田成和,1961,郡上八幡町史 下,八幡町役場
 平成26年明建神社大祭礼関係資料
 牧史談会,1989,牧史談会会誌
 賀喜踊り保存会,1965,賀喜踊り由来
 平成26年河鹿神社賀喜踊り資料
 寺田敬蔵,1977,郡上の祭り,郡上史談会
 明宝村教育委員会,1993,明宝村史 通史編 下,明宝村
 清水昭男,2005,岐阜県の祭りから 5,一つ葉文庫
 清水昭男,1996,岐阜県の祭りから,一つ葉文庫
 白鳥町教育委員会,1977,白鳥町史 通史編 下,白鳥町
 大和町,1988,大和町史 通史編 下,大和町
 島七代天神社祭礼で聞き取り(2014)
 中日朝刊20110921
 岐阜朝刊20110518
 中日朝刊20141015
 中日朝刊20141005

掛踊りに特徴的なのは、他地域の太鼓踊りが失った側踊りを伴うことであり、山鉦・傘鉦状の依代のほか、幟、花笠・田打ちの風流姿の役者、笛と歌の伴奏者に、奴、さらに、おかめ・大黒の道化、鬼面をつけた露払い等々、出役者は総勢百数十名を数える。この役者の多さが定期上演を困難にしているのだが、とにかく壮観である。

郡上市内の民俗芸能を概観(表8)すると、興味深いことに、掛踊りと分布を重ねあわせるように伝承しているのが「大神楽(だいかぐら)」「伊勢神楽(芸神楽とも)」で、これにも多くの役者が動員される。役者一覧(表9)によれば、掛踊りと大神楽の役者が共通しており、さらに、長良川支流の吉田川の支流の川筋ごとに点在する集落それぞれに、関連しあう芸能が伝承されている。ちなみに、御鉾様(御鉾祭りのご神体であるミニチュア木製鉾)が巡村したときもこの川筋ルートを北上するコースがとられた²¹⁾。

さて、この風流踊り圏の形成と繰り返される復活はどういう意味を持つのだろうか。いまのところ、筆者の力量不足により、前節のようなわかりやすい要因を示せず、に節を閉じざるを得ない。大方のご教示を請う次第である。

表8 郡上市民俗芸能一覧

		○毎年 △不定期 ×廃絶				
町村	集落	大神楽	伊勢神楽	掛踊り	その他	
奥筋	高鷲	ひるがの			獅子舞(荏刈村尾上から譲り受けた)○	
		西洞	△		神社での獅子舞奉納は毎年やっている。(道行き含めては、5年に1回)	
		鷲見・上野	△		3年おき	
		鮎走	○			
		切立	△		3年おき	
		大鷲	○			
		中洞	○		大鷲白山神社の前日 大字は大鷲	
牛道筋	白鳥	阿多岐	×		昭和46年(1971)が最後	
		六ノ里	△	△	3~5年おき	
		野添	△		奥大間見より伝播(安永2・1773) 拝殿踊り○	
		中西	△			
		恩地	△			
		白鳥	○		拝殿踊り○	
		為真	△		5年おき	
		那留	△			
		越佐	×			
		大島	△	△	大:6~7年おき	
		中津屋	△	×	△	
		石徹白			嘉喜踊り 大:大間見より伝播 巫女舞○	
		前谷	△		拝殿踊り○	
		歩岐島	△			
		長滝			六日祭り(延年)○ ででん祭り○	
		二日町	△		八幡踊り△:島より伝播	
		向小駄良	△	△		
栗巣筋	大和	母袋	△			
		上栗巣	△		大間見または下栗巣より伝播	
		下栗巣(西俣)	△		大間見より伝播(明治6・1873)	
		東俣	×	×	網笠踊り× ※要確認	

町村	集落	大神楽	伊勢神楽	掛踊り	その他
	牧		△	△	七日祭り○ 寒水より伝播 伊:尾張神楽(芸神楽),大島より伝播(天保15・1844)
	徳永	△	×		島より伝播(大正初) おおむね5年おき→近年,十数年おき
	鳥	△			八幡踊り(奴踊りとも)△
	名皿部	△			大間見(鳥か)より伝播,創作とも(明治末)
	小間見	△			大間見より伝播(明治5・1872)
	奥大間見	△			津島→口神路より伝播
	大間見	△?			伊勢→口神路より伝播→おそらく奥大間見
	口大間見			△	中神路より伝播
	中神路		△	△→ ×	雨乞い鎌倉発祥伝承あり 伊:尾張神楽(芸神楽),吉田より伝播(昭和8・1933)
	口神路	△	△		川崎踊り△ 伊:伊勢より伝播(享保年間・1716-35)
	河辺	×	△		大:拝殿焼失により廃絶(明治27・1894) 伊:尾張神楽(芸神楽),吉田より伝播(大正) 三番叟△(伊勢神楽とともに奉納),鎌倉より伝播
	万場			△	中津屋より伝播(昭和32・1957)
	剣	△		○→ △	嘉喜踊り 廃絶後,新たに口大間見より伝播(大正11・1922) 大:大間見より伝播(明治5・1872)
明方筋 明宝	坂本		×		美濃より伝播(大正12・1923)
	奥住	○	△		※要確認
	小保木		○		新神楽(ほぼ伊勢神楽)○ 白金より伝播(明治22-23・1889-90)
	鎌辺	○			畑佐より伝播
	奥長尾		×		東気良より伝播(明治15・1882)
	畑佐	○			八幡より伝播
	小川	○			男踊り女子踊り○
	二間手	○			大谷より伝播(天保・1830-44)
	西気良	○			男踊り・大:小川より伝播 男踊り×
	東気良		○		伊:吉田から伝播(明治初)
	寒水			○	母袋より伝播(宝永6・1709)
	大谷	○	×		大伊:神路より伝播(文政・1818-30)
上保筋 和良	上土京		○		
	下土京	○			
	方須	○	×		
	安郷野		×		
	鹿倉		○		
	宮代	○			
	上沢	○	○		山車神楽○
上保筋 和良	下沢	○	○		
	下洞	○	○		
上保筋 和良	法師丸	○			
	野尻	○	×		
	宮地	○	○		山車神楽○
	横野	○			
	東野	○			山車神楽○ →要確認
	田平	△	×		
小駄良筋 八幡	小久須見	○			大字は有穂
	市島	○			
	吉田		○		
	川佐	△	×		市島から習った
	田尻		○		大正天皇御大典の時,加茂郡より師を招いて習った
	小野	○			奴踊り○
	鳥谷(愛宕)		×		春祭りの日に神事のみやっている
	八幡北 一岸剣神社	○			
	八幡南 一日吉神社	○			
	河鹿		×	△	3年おき 賀喜踊り,寒水または中神路より伝播 伊:吉田より伝播
	五町	△			
	中桐	○			奴踊り○ 大字は初音
	坪佐		×	△	10または十数年おき,慶事・祝典時 中神路より伝播
	竜牙	×			

町村	集落	大神楽	伊勢神楽	掛踊り	その他
	大洞(福成)	○			日吉から一式ならった
	入間(大洞)	△			休止中 白鳥の牛道から習う
	中野	○	×		中野と穀見は合同
	穀見		×		
	宇留良	○			子どもがいないので大人だけで実施
	高畑	○			
	那比	○			
	千虎		○		
	亀尾島		×		
小駄良筋 八幡	西乙原	○	×		美並村大矢から習った(大正)
	小那比	△			平成10年より休止
	野々倉	×			
	洲河	△			平成11年より休止中
	夕谷	△			H21より休止中
	美山	○	×		
	鬼谷	○			
	安久田	×			
下川筋 美並	梅原	○			
	深戸	○			
	相戸		×		
	くじ本	○			
	三江市	○			
	杉原	×	×		
	粥川	○			
	上市場	×			
	上苅安	○	×		
	下苅安	○			
	高原	×			粥川と一緒に星宮で実施
	福野	○			
	下田	○			
	大矢	○			
	勝原		○		
	半在		×		

※出典
 和田清美,2011,明宝寒水史
 太田成和,1961,郡上八幡町史 下,八幡町役場
 平成26年明建神社大祭礼関係資料
 牧史談会,1989,牧史談会誌
 賀喜踊保存会,1965,賀喜踊由来
 平成26年河鹿神社賀喜踊り資料
 寺田敬蔵,1977,郡上の祭り,郡上史談会
 明宝村教育委員会,1993,明宝村史 通史編 下,明宝村
 清水昭男,2005,岐阜県の祭りから 5,一つ葉文庫
 清水昭男,1996,岐阜県の祭りから,一つ葉文庫
 白鳥町教育委員会,1977,白鳥町史 通史編 下,白鳥町
 大和町,1988,大和町史 通史編 下,大和町
 岐阜朝刊20110726

監修:郡上市教育委員会 岩井彩乃

表9 役者一覧

坪佐	
ダシの花持ち	1
田楽持ち	1
露払い	2
先箱	2
剣振り	4
長刀振り	4
大将	1
弓持ち	2
鐘ひき	1
拍子方(シナイを負う)	4
おかめ	1
笛吹き	8
大奴	6
小奴	10
田打ち	13
唄下し	4
花笠	12
鼻高	1
オキナ	1
市平	1
計	79人

出典：郡上八幡町史 下

河鹿		昭和46(1971)		平成26(2014)	
火の用心	1	火の用心	1	火の用心	
すつとこ	1	すつとこ	1	スツコ	1
出しの花	1	出花持ち	1	ダシの花(AET)	1
幟	1	幟持ち	1	笠木(AET)	1
笠木	1	笠木持ち	1	幟	1
警護	1	御幣	1	けいご(婦人会)	
先箱	2	大将	1	先箱	2
鳥居振り	4	お側付き(中児)	4	鳥居ヒネリ	5
槍振り	2	警護(十数名)		槍	4
鉄砲	2	先箱	2	鉄砲	4
弓	2	鳥毛振り	4	弓	
素奴	8	槍振り	2	けいご(婦人会)	
警護	2	鉄砲持ち	2	伍平	1
大笠	1	弓持ち	2	大将	1
五平	1	大笠	1	オンパ	3
大将	1	拍子替	1	剣ふり	2
オリバ(うち大刀持ち2)	4	おかめ	2	拍子	4
警護	1	音頭師	4	鐘引	2
剣振り	2	剣振り	2	拍子替	1
拍子方	4	拍子方	4	けいご(婦人会)	
鐘ひき	2	鉦引き	2	笛	4
拍子替え	1	重歌	4	おかめ	2
警護	2	大黒	1	けいご(婦人会)	
おかめ	2	笛吹き	10	音頭	5
音頭	4	ささらすり	2	重歌	4
歌	4	田打ち(中児)	12	大黒	1
警護	1	花笠(小児)	12	ささら	2
大黒	1	しで笠(中児)	20	田打ち	9
笛吹き	10	素奴(中児)	8	けいご(婦人会)	
ササラすり	2	計	108人	花笠	7
田打ち	12	出典：郡上の祭り		幟	1
警護	2			けいご(婦人会)	
花笠	12			酒世話	9
警護	2			庶務	5
幟	1			計	83人
しで笠(現在は省略)	20			出典：祭礼挙行資料	
計	120人				

出典：郡上八幡町史 下

中津屋	
昭和44(1969)	
白玉奴(先奴)	4
花笠	12
鉦打	1
笛吹	7
拍子打	3
素奴<少年>	25
大刀奴(少年)	12
師匠	1
火男	1
しゃぐま	1
歌おろし	7
計	74人

出典：白鳥町史

中神路	
昭和50(1975)	
露払い	2
出しの花	1
田楽	1
幟	1
欄宜	1
矢持ち	2
傘鉦	1
先箱	2
大鳥毛	2
小鳥毛	4
剣	4
長刀	4
奴	8
おかめ	1
鉦	1
拍子木	1
拍子打ち(しない)	4
笛吹き	10
おかめ	1
田打ち(小児)	12
花笠(幼児)	12
歌うたい	5
一兵衛(列外)	2
鼻高(列外)	1
計	83人

出典：大和町史

牧		寛政9(1797)		昭和52(1977)		平成5(1993)		平成26(2014)	
鐘振り	10	出しの花	1	大出し花	1	大出しの花	1		
奴	8	露払い	2	露払い	2	露払い	2		
しない負太鼓打	4	大鳥毛	10	先箱	2	先箱(さきやっこ)	2		
笛吹	4	大鳥毛(師匠)	1	大鳥毛	4	大鳥毛(おおとりい)係	1		
花籠持	1	お徒士	4	鏡槍	2	大鳥毛	1		
田打	8	殿様(小児)	1	星槍	2	お徒歩	3		
踊子	38	お側付き	2	三つ又槍	2	殿様(男児)	1		
計	73人	狸々	2	大傘	1	お側付(男児・女児)	2		
出典：岐阜県の祭りから		剣振り	9	日傘	1	狸々(鉄砲・弓)	2		
		長刀振り	13	お徒歩	2	剣(けん)係	1		
		剣(師匠)	1	お側付	1	剣	5		
		おかめ	1	神主	1	薙刀係	1		
		小鳥毛	13	殿様	1	薙刀(女児)	6		
		鉦引き	3	お側付	1	おか女(め)	1		
		拍子(しない)	4	御幣持ち	1	小鳥毛(ことりい)係	1		
		拍子(師匠)	1	お徒歩	2	小鳥毛	5		
		笛吹き	12	狸々	2	鐘引	3		
		歌おこし	8	剣振り	10	はんや	1		
		おかめ	1	薙刀振り	11	拍子係	1		
		田打ち(子ども)	25	おかめ	1	拍子	4		
		田打ち(師匠)	1	小鳥毛	11	笛	7		
		花笠(幼児)	24	鉦引き	3	おか女	1		
		花笠(世話役)	1	拍子	4	田打係	1		
		白面	1	笛吹き	15	田打	13		
		はんや	1	歌起し	8	歌おろし	8		
		拍子木	1	おかめ	2	白面	1		
		道化(列外)		田打ち	28	道化	2		
		計	143人	花笠	24	計	77人		
		出典：大和町史		はんや	1	出典：祭礼挙行資料			
				道化	2				
				白面	1				
				計	149人				
				出典：岐阜県の祭りから					

剣		昭和45(1970)		※同 大神楽	
露払い	2	出しの花	1		
玉奴	4	露払い	2		
長刀	7	奴	4		
奴	5	剣	1		
素奴	22	長刀(中学生)	6		
拍子打ち	4	鳥毛奴	5		
笛吹き	10	御神灯	1		
音頭・地歌	10	東西呼ばり	1		
田打ち(小児)	40	おかめ	1		
田打ち頭	2	ささらすり(子ども)	1		
道化(列外)		獅子	1		
計	106人	神楽堂	2		
出典：大和町史		神楽打ち(子ども)	2		
		小太鼓打ち	1		
		笛吹き	7		
		鼓打ち	7		
		赤鬼(列外)	1		
		鼻高(列外)	1		
		火男(列外)	1		
		白面(列外)	1		
		計	46人		

鳥		平成26(2014)	
出し花	3		
神楽幟持ち	1		
田楽(御神体)	1		
東西呼ばり	1		
露払い(唄人)	8		
大奴	4		
小奴	8		
ささらすり(小児)	1		
獅子振り	9		
神楽幟持ち	1		
大太鼓・太鼓打ち(小児)	2		
大太鼓・太鼓堂持ち	2		
小太鼓打ち	1		
笛吹き	8		
鼓打ち	8		
鼻高	1		
計	59人		
出典：祭礼挙行資料			

おわりに

概観したように民俗芸能は、われわれの思った以上に変化してきた。とくに、昭和20～30年代までは新民謡運動にみるような、現代の眼で見れば、かなり思い切った創造的な形成があった。原型保存を第一にする、こんにちの文化財保護の方法は、変化という民俗芸能の本来的な特徴を無視して、文字通り制度の枠にはめ込んでしまう²²。はたして、変化は民俗文化財にとってマイナスなのだろうか。発展というプラス面に評価することはまちがいのだろうか²³。YOSAKOIソーラン祭り（北海道札幌市）のように、実際に、祭礼を創出し、しかも、成功している事例²⁴もあるのだ。

指定は、「凍結保存」²⁵になるだけでなく、むしろ、積極的に変化の引き金になり得る。例えば、指定のために伝承者や文化行政担当者等が改変（意識・無意識は別として）する事例も報告されている²⁶。

加えて、国・都道府県・市町村という指定の階梯に、2009年からユネスコ無形文化遺産が加わった。日本国内の文化財保護法における指定制度とユネスコの登録制度とは、レベル的な関連づけがあるわけではないが、海外からの評価付けに弱い日本²⁷では、今後、ユネスコ無形文化遺産の権威化が容易に想像される²⁸。当初、重要無形文化財・重要無形民俗文化財・選定保存技術のうち原則として指定年の早いものから順に推薦するとしていた国は、登録数の制限等のユネスコの対応を受けて、指定枠外の「和食」（2013年登録）や既登録案件に複数の指定文化財を追加する拡張提案をした「和紙」（2014年登録）など、日本政府としての提案方針を変更させている²⁹。

本稿で紹介したように、岐阜県には、芸能史的に興味深い民俗芸能が広域的に伝承され、いまなお、活発な上演が行われている。過疎傾向とはいえ、伝承者等の意識も高い。その行く末を案じつつも期待している、公立博物館を含む文化財保護に携わるひとりとして、今後の動向に注意深い眼を向けたいと思っている。

県）、[無形文化遺産情報ネットワーク、2014]（岩手・宮城・福島県）が刊行され、宮城県については、[宮城県地域文化遺産プロジェクト（調査：東北大学東北アジア研究センター）、2013]でデータベースを公開、かつ、[高倉浩樹他、2014]で論考とシンポジウムのまとめを読むことができる。

²² 本稿では、原則として、神事と奉納芸能をまとめて「祭礼」、芸能のみを「民俗芸能」とする。なお、「民俗芸能」については、「郷土芸能」「伝統芸能」「無形民俗文化財」等さまざまに呼称されてきたが、本稿では制度および制度史に言及する場合を除き、原則として「民俗芸能」を用いる。

²³ 前掲[高倉浩樹他、2014]など。対して、ボランティア元年となった阪神・淡路大震災時の復興支援の対象は多文化共生事業が主だった。[小島多恵子、2014]参照。

²⁴ [山泰幸、2006]

²⁵ 当該分野における成果としては、今のところ、社会学領域が民俗学に先行している。[植田今日子、2013] [山口幸夫、2013]参照。

²⁶ 祭礼名の表記は地域で用いられているもの、指定文化財については指定名称を用いるが、読みやすさを考慮して、一部、統一した（「踊り」と「踊」など）。

²⁷ [南本有紀、2014] [大垣市教育委員会、2014]

²⁸ 用字は「車」編に「山」。

²⁹ 批判する意図はないが、いうまでもなく、これなどは祭礼執行の根幹部分の大きな変容である。

³⁰ [＜自治はどこへ＞「限界集落の星」転落 29歳町議の逮捕、2014]

³¹ [星野紘、2012] [星野紘、村の伝統芸能が危ない、2009] [澁谷美紀、2006]参照。

滋賀県民俗文化財保護ネットワークフォーラム「民俗文化の多様な継承の形を求めて 地域社会の今とまつり」（2014年11月8日、甲賀市碧水ホール）、東京文化財研究所無形文化遺産部 第9回無形民俗文化財研究協議会「地域アイデンティティと民俗芸能 移住・移転と無形文化遺産」（2014年12月5日、東京文化財研究所）では、滋賀県・和歌山県・山梨県の過疎集落における民俗芸能継承の事例報告があり、今後の保護施策について討議された。

また、現在、村上忠喜（京都市文化財保護課）等声掛け人が「民俗文化財の保護施策に、研究者としてのスタンスをもって携わる方々の意見交換について」（2014年10月12日）呼びかけを行っている。

¹ 例えば、有形文化財では、[国立歴史民俗博物館、2012] [日高真吾、2012]が文化財レスキュー活動を概括している。無形民俗文化財では、[東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会（事務局：さいたま民俗文化研究所）、2012] [東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会（事務局：さいたま民俗文化研究所）、2013]（以上、岩手県）、[民俗芸能学会福島調査団、2014]（福島

¹² 東京文化財研究所無形文化遺産部 第9回無形民俗文化財研究協議会「地域アイデンティティと民俗芸能 移住・移転と無形文化遺産」(2014年12月5日, 東京文化財研究所)における総合討議でのコメンテーター・高倉浩樹の報告より。

¹³ [山路興造, 2002]

¹⁴ これについては, さまざまな論考がなされいて, 主なものは以下のとおり。[植木行宣他, 2007][菊地暁, 2001][才津祐美子, 1996]

¹⁵ [村上忠喜, 2013] など。

¹⁶ 「文化財保護法の一部改正について」(文化財保護委員会事務局から各都道府県教育委員会教育長あて通達)(1954年6月22日 文委企第50号)[宮田繁幸, 2002] 以下, 「」内は引用。

¹⁷ [俵木悟, 民俗芸能の伝承組織についての一試論「保存会」という組織のあり方について, 2011]

¹⁸ [川村清志, 2013][坪井秀人, 2006]

¹⁹ 1970年代には新興団地の二世帯が, 町内のよりどころとして新規に祭礼を創出する動きがあった[玉野和志, 2005]。冒頭の東日本大震災からの復興として祭礼が優先されるようすを彷彿させる。

²⁰ [中村茂子, 2011]

²¹ [大和町, 1988]

²² [川村清志, 2013][藤本愛, 2011]

²³ [俵木悟, 2006]は, 変化する民俗芸能を肯定的にとらえ, 文化財保護の従事者に「変化の是非を問うよりも, 変化を生きる民俗芸能に対して, 我々が貢献できることは何かと問うこと」を提案している。

²⁴ [福岡裕爾, 2000]によれば, 北海道では内地から移植された民俗芸能が多数分布しており, これまで研究対象とされてこなかったが, 近年, 整理・研究されるようになった。舟山直治「北海道への移住と民俗芸能」(東京文化財研究所無形文化遺産部 第9回無形民俗文化財研究協議会「地域アイデンティティと民俗芸能 移住・移転と無形文化遺産」)では, 236件が図表に整理, 発表された。

²⁵ [藤本愛, 2011]

²⁶ [金賢貞, 2013][由谷裕哉, 2007]

なお, 民俗芸能以外の事例報告としては, [大平晃久, 2005][斎藤純, 1999]がある。

²⁷ [(ニュースQ3)「モンドセレクション受賞」っておいしいの?, 2015]によると, モンドセレクション(本部: ベルギー)の2014年度受賞のうち, ヨーロッパ125社に

対してアジアは808社, うち7割が日本であるとし, 海外の評価に弱い日本社会の傾向を理由に挙げている。

²⁸ [川野裕一朗, 2014][村上忠喜, 2013]

²⁹ [宮田繁幸, 岐路に立つ無形文化遺産保護条約, 2012]

参考文献

- <自治はどこへ>「限界集落の星」転落 29歳町議の逮捕。(2014年12月18日)。毎日新聞。
- (ニュースQ3)「モンドセレクション受賞」っておいしいの? (2015年1月9日)。朝日新聞。
- 菊地暁。(2001)。民俗文化財研究協議会の軌跡。著: 菊地暁, 柳田國男と民俗学の近代。吉川弘文館。
- 宮城県地域文化遺産プロジェクト(調査: 東北大学東北アジア研究センター)。(2013年12月24日)。参照日: 2015年1月9日, 参照先: みやしんぶんデータベース(宮城県における東日本大震災で被災した無形民俗文化財調査成果データベース): <http://mukeidb.cneas.tohoku.ac.jp/TopPage;jsessionid=FF8770DF5C927C8D19F58E2C2D6EEA84?0>
- 宮田繁幸。(2002年7月23日)。文化財としての民俗芸能。参照日: 2015年1月9日, 参照先: <http://www.tobunken.go.jp/~geino/pdf/kaki/27kaki1.pdf>
- 宮田繁幸。(2012)。岐路に立つ無形文化遺産保護条約。無形文化遺産研究報告 6号。
- 玉野和志。(2005)。お神輿と町内社会の世代交替。著: 玉野和志, 東京のローカル・コミュニティ。東京大学出版会。
- 金賢貞。(2013)。「創られた伝統」と生きる 地域社会のアイデンティティ。青弓社。
- 高倉浩樹他。(2014)。無形民俗文化財が被災すること 東日本大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌。新泉社。
- 国立歴史民俗博物館。(2012)。被災地の博物館に聞く 東日本大震災と歴史・文化資料。吉川弘文館。
- 才津祐美子。(1996)。『民俗文化財』創出のディスコース。待兼山論叢 日本学編 30号。
- 斎藤純。(1999)。もう一つの桃太郎神社 岐阜県加子母村における一小祠の成立。著: 日本昔話学会, 現代語り手論 昔話—研究と資料— 27号。三弥井書店。

- 山口幸夫. (2013). コミュニティを核とする復興 地域福祉資源としての伝統芸能・祭 大槌町を例に. 社会事業研究 52号.
- 山泰幸. (2006). 「象徴的復興」とは何か. 先端社会研究 5号.
- 山路興造. (2002). 京都・民族芸能の今 デジタル・アーカイブをめぐる. アート・リサーチ 2号.
- 小島多恵子. (2014). ふるさつをつくる アマチュア文化最前線. 筑摩書房.
- 植田今日子. (2013). なぜ大災害の非常事態下で祭礼は遂行されるのか 東日本大震災後の「相馬野馬追」と中越地震後の「牛の角突き」. 社会学年報 42号.
- 植木行宣他. (2007). 民俗文化財 保護行政の現場から. 岩田書院.
- 星野紘. (2009). 村の伝統芸能が危ない. 岩田書院.
- 星野紘. (2012). 過疎地の伝統芸能の再生を願って 現代民俗芸能論. 国書刊行会.
- 清水昭男. (2009). 美濃地方郡上地区の御鉾祭り 順村の内容に芸能史を添えて. まつり 71・72 合併号.
- 川村清志. (2013). 近代に生まれた「民謡の里」 麦屋節とこきりこ唄を中心に. 著: 青木隆浩, 地域開発と文化資源. 岩田書院.
- 川野裕一郎. (2014). 文化財行政の抱える問題 島根県佐陀神能の事例から. 社会学研究科紀要 77号.
- 村上忠喜. (2013). 文化財保護と民俗 これまでの歩みと今後の課題. 著: 八木透, 新・民俗学を学ぶ 現代を知るために. 昭和堂.
- 大垣市教育委員会. (2014). 大垣祭総合調査報告書. 大垣市教育委員会.
- 大平晃久. (2005). 創出されたヘリテイジ 岐阜県可児市明智城跡を事例に. 東海女子大学紀要 25号.
- 大和町. (1988). お鉾祭り. 著: 大和町, 大和町史 通史編 下. 大和町.
- 中村茂子. (2011). 「かけ踊り」再考. 実践女子大学美術美術史学 25号.
- 坪井秀人. (2006). 感覚の近代. 名古屋大学出版会.
- 東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会 (事務局: さいたま民俗文化研究所). (2012). 東日本大震災民俗文化財現況調査報告書 岩手県 I. 東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会.
- 東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会 (事務局: さいたま民俗文化研究所). (2013). 東日本大震災民俗文化財現況調査報告書 岩手県 II. 東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会.
- 藤本愛. (2011). 無形民俗文化財の調査記録に関する提言 奈良県の祭り・行事および民俗芸能の調査を通して. 奈良女子大学文学部研究教育年報 8号.
- 南本有紀. (2014). 大垣祭 祭りの担い手と再生について. 岐阜県博物館調査研究報告 35.
- 日高真吾. (2012). 記憶をつなぐ 津波被害と文化遺産. 千里文化財団.
- 俵木悟. (2006). 民俗芸能の変化についての一考察. 著: 東京文化財研究所芸能部, 民俗芸能の上演目的や上演場所に関する調査研究報告書. 東京文化財研究所芸能部.
- 俵木悟. (2011). 民俗芸能の伝承組織についての一試論 「保存会」という組織のあり方について. 著: 東京文化財研究所無形文化遺産部, 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査報告書. 東京文化財研究所無形文化遺産部.
- 福岡裕爾. (2000). 現代の祭りにおける「伝承」のありかた 北海道芦別市の健夏山等を題材に. 福岡市博物館研究紀要 10号.
- 民俗芸能学会福島調査団. (2014). 福島地域の無形民俗文化財被災調査報告書 2011～2013. 民俗芸能学会福島調査団.
- 無形文化遺産情報ネットワーク. (2014). 311 復興支援 無形文化遺産情報ネットワーク報告書 東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興. 東京文化財研究所無形文化遺産部.
- 木村直樹. (2007). 御鉾祭考 民衆の伊勢信仰. 樹林舎.
- 由谷裕哉. (2007). 文化財指定と祭礼の復活 二上射水神社築山行事の場合. 二上山研究 4号.
- 澁谷美紀. (2006). 民俗芸能の伝承活動と地域生活. 農山漁村文化協会.